

平成 27 年度 第 2 回「野生生物と社会」学会理事会 議事録

日時：2015 年 11 月 21 日（土）17 時 00 分～19 時 00 分

場所：琉球大学千原キャンパス共通教育棟 2 号館 2 階 2-201（沖縄県中頭郡西原町字千原 1）

出席者：（敬称略：五十音順）赤坂猛、伊吾田宏正、上田剛平、鈴木克哉、鈴木正嗣、柳川久、八代田千鶴、湯本貴和、草刈秀紀（委任状提出欠席：岩井雪乃、羽山伸一）

学会誌編集委員：梶光一、

フォーラム誌編集委員：角田裕志

青年部会：安田章人、桜井良

行政研究部会：野崎英吉、上田剛平、増澤直

監事：野崎英吉

幹事：

顧問：梶光一

I. 会長挨拶、大会実行委員長挨拶

II. 議決事項

1. 「野生生物と社会」学会機関リポジトリ等に関する方針（新規）について【資料 1：学会誌・フォーラム誌編集委員会】

角田フォーラム誌編集長から、資料 1 に基づいて「野生生物と社会」学会機関リポジトリ等に関する方針（案）について説明があり、反対意見なく承認が得られた。

III. 議題

1. 学会会員数と財政状況【資料 2：事務局】

鈴木（克）事務局長から資料 2 に基づいて説明があった。会員数が 510 となり 51 増加した。このうち賛助会員は 11 団体 12 口。会費未納者についても督促の成果が出て減少した。退会者も減少傾向にある。2012 年 11 月に学会名を変更して以降、会員の減少傾向に歯止めがかかり、近年増加傾向にある。特に個人会員の増加が顕著である。大会参加数も犬山大会以降増加。沖縄大会は非会員の参加（とくに地域の方の参加）が非常に多い。

年度当初予算からの変更点としては、会員数が増加しているので、会費収入の増加が予想される。その他は当初予算通りで計画している。

主な意見

- ・グラフの宇都宮大会の年度が間違っているので訂正を

2. 財政正常化プロジェクト達成状況と今後について【資料 3：事務局】

鈴木（克）事務局長から、現理事会体制当初に定めた、財政正常化にむけた取り組み課題の結果について、資料 3 に基づいて報告があった。H26 年度 第 1 回理事会で掲げた全項目について検討のうえ、実施を行った。中・長期的課題については新たに将来構想 WG を立ち上げるなど、検討中である。当面の財政危機を脱したため、財政正常化プロジェクトについては終了する。

主な意見

- ・学会の安定的な運営に向けて、会員獲得など今後も努力していく

3. 学会誌発行予定【資料4：学会誌編集委員会】

梶編集委員長から資料4の通り、発刊状況、投稿・査読状況について報告があった。発行計画は概ね予定通り進んでいるが、投稿数が過去最低となっている状況。査読3巻2号は6本の掲載を予定して、2016年2月の発行を目指す。

主な意見

- ・特になし

4. フォーラム誌発行予定【資料5：フォーラム誌編集委員会】

角田編集委員長から、資料5の通り、編集体制、発刊状況、その他について説明があった。今回の編集会議で出た議題として学会誌とF誌の編集委員の重複があり、特定の人への負担を軽減するため、避けて欲しいという意見が出た。編集委員会規約・投稿規定改定に反映させてほしい。

主な意見

- ・特になし

5. 将来構想検討状況について【資料6：将来構想検討WG】

上田将来構想副座長から、資料6の通り、将来構想検討WGの進捗状況について説明があった。第2回検討会については、出席者8名だった（資料は9名になっているので変更）。第2回検討会の議論内容としては、今後の本学会の担い手の一つとして想定される実務者として民間企業の役割や学会との関係について議論があった。今後の学会の目標設定として、H29年度からの3年間で会員数を700名、収入としては様々な経費を盛り込んで600万円以上を目指すことが検討された。また、ロードマップとして法人化を想定する必要があり、次期理事会体制で検討が必要。今回の将来構想については、成果指標を盛り込み、評価をしていく方向で検討。その他、今後の予定については、資料通り。

主な意見

- ・各部会・委員会のアクションプランについては、将来構想が固まっていない状況で、作るのは順番が逆にならないか？（前回は将来構想に基づいて、各部会がアクションプランを作成した経緯がある）
- ・学会としての目標（会員数、収入等）を定めるなど、方向性としてはコンセンサスがとれてきたので、それに基づいて各部会・委員会としてアクションプランを出してほしい。
- ・各部会の会議等がもう終わってしまっているため、スケジュール等については考慮して欲しい。

6. H28年度大会について【梶理事】

梶次期大会長（予定）から、第22回「野生生物と社会」学会大会が11月4日（金）～6日（日）東京農工大学で開催され旨報告された。

7. H29年度・30年度大会について【事務局】

鈴木事務局長から、H29年度については帯広畜産大学について決定しているが、それ以降の大会候補地について、意見が求められた。都市・地方の隔年開催でいくと、都市開催となる。

主な意見

- ・会員数の層が薄い地域（中国・四国）がターゲットとしてよいのではないかと将来構想WGでも検討している。
- ・中国・四国の都市部開催か？宿泊施設のキャパシティも考慮しなければならない。
- ・広島市、岡山理科大学、九州大学、島根、四国、静岡、仙台、
- ・開催するための会員数が少ないことは、実行委員会の結成が困難という課題がある。学会本部がどのようなサポートをしてくれるか？
- ・あらかじめ地方でローテーションを決めておくと、心構えができる。会員層が薄いところでの開催に向けて、遠隔地でもできる業務については理事会に「大会支援委員会」等を作っておいて、支援する必要がある。
- ・今回の沖縄大会は、学会本部がその部分を担っている。多くの非会員・地域の方が参加する効果があり、マスコミ等の注目も浴びている。しかし、学会本部も一人では負担が大きすぎる。複数人で担当チームを作る必要がある。それらを含めて地方大会運営向けのマニュアル化が必要。
- ・参加申し込み受付・大会要旨集作成を省力化するための登録システムについては、他学会に運営を参考に、検討が必要。その他大会申込み時にもアンケート等をWeb上でとれるといい。大会HP・学会HPのシステム構築について、Web担当者と相談予定。

8. 大会における託児補助方針について【資料7：男女共同参画】

八代田男女共同参画担当から、資料7の通り、大会における当学会の託児補助方針案について報告があった。

9. 来年度予算について【事務局】

鈴木（克）事務局長から、来年度予算案作成のために、各部会・委員会が運営のために必要な経費について予算要求を行って欲しい旨連絡があった。

10. 「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律施行規則の一部を改正する省令案に対する意見の募集について（パブリックコメント）」への対応について【資料8：法改正WG】

鈴木（正）副会長から、資料8の通り、当パブコメ案を4学会共同で提出することについて説明があり、承認が求められた。

主な意見

- ・哺乳類学会のサル部会からも意見を提出しているが、4学会共同声明に対する考慮を求める内容に変更した方がよいのではないかと。

結論

今後、他学会からの意見も含めて4学会で調整した案について、ML理事会で承認を諮る。

II. 報告

1. 男女共同参画報告

2. 青年部会報告【資料 9】

安田青年部会長から、資料 9 の通り、青年部会活動について報告があった。

主な意見

- ・ 第 6 回 GF に何人が参加したか？ →約 25 名が参加した。
- ・ 参加者の大半は当学会の青年会員だったが、他学会との情報交流にむけて継続的に取り組めるように青年部会で検討中。

3. 行政研究部会報告【資料 10】

野崎行政研究部会長から、資料 10 の通り、行政研究部会活動について報告があった。

主な意見

特になし